HOTeye ホットアイ

心と心のかよいあう福祉の情報誌

2024 Vol.116

P1 特集 社会福祉事業所紹介
地域そして住民が繋がり支え合うまちづくり
社会福祉法人 若桜町社会福祉協議会

P5 チャレンジ福祉の仕事
社会福祉法人 若桜町社会福祉協議会

P6 福祉専門職の紹介
とにかく出向いて繋がりと信頼関係を築くこと「コミュニティソーシャルワーカー(CSW)」

P7 福祉人材センター情報
福祉の職場で働きたい方と人材を求める事業所との橋渡しをしています

P8 ボランティア・市民活動センター情報
とっとりボランティアバンク登録団体紹介
特定非営利活動法人みんなの家「コミュニティカフェましろ」

P9 ボランティア・市民活動センター情報
能登半島地震「鳥取県災害ボランティア隊」振り返り会レポート

P11 ことぶき高齢者情報
第32回 因伯シルバー大会

P12 ことぶき高齢者情報
いきいきシニア

P13 鳥取県社会福祉協議会からのお知らせ

住民と支え合う地域の福祉力を高めるために

災害時を想定して全ての人が避難できる体制づくりと、集落の現状把握を目的とした「支え愛マップ」の更新説明会に、地区の自治会長をはじめ、若桜町社協、若桜町役場、包括支援センター、民生委員ら9名が地区公民館に集まり、熱心に見直し確認作業に取り組みました。

社会福祉法人

若桜町社会福祉協議会

若桜町社会福祉協議会は、若桜町地域福祉センター「ドリーミー」内にあり
デイサービス、訪問介護、居宅介護支援の介護保険事業のほか、
就労継続支援B型事業「若ざくらふれあい作業所」、居宅介護、ボランティアセンター、
総合相談支援窓口など、若桜町の福祉を総合的に担っています。
訪れた日は、毎週水曜日に行われる配食弁当の「食事サービス」と
作業所の「若ざくら生芋こんにゃく」作りがあると聞き話をうかがいました。

毎週水曜日に行われる配食弁当の「食事サービス」は、すべて手作りで、配達もボランティアが行います。この日も調理17名、配達5名のボランティアが集まり、63食の弁当を作り配達されました。

※取材は感染対策を徹底した上で、撮影時のみマスクを外しています。

地域そして住民が繋がり支え合うまちづくり

食事サービスは、5名が手分けをして配達します。元若桜町長の小林昌司さんも配達ボランティアの一人で「恩返しと思ってやっていますが、元気をもらったり配る楽しみがあります」と話します。受け取る人も「いつも楽しみにしています。元町長が持って来てくれてうれしいです」と会話も弾みます。

若桜町社会福祉協議会では、毎年集落での「支え愛マップ」更新と町内の「小地域サロン」への訪問活動に力を入れて取り組んでいます。

訪問活動を行うことで、各集落の抱えている課題の聞き取りを行っていますが、どの集落でも聞かれるのが、高齢化が進み、1人暮らし世帯や高齢者世帯が増加していることで担い手不足が生じ、集落の維持が困難になっている現状です。

見守りが必要な状況が増えていく中、お互いが高齢でありながら普段から畑で顔を合わせたり、定期的に一緒に散歩したりと、住民同士で自主的な見守りや状況把握を行っている集落もあります。

そこに「コミュニティソーシャルワーカー（CSW）が、地域住民だけでは困難な状況に少し手を差し伸べることで、住民自らが主体的に取り組めるように支援を行っていく必要があると思います」と、CSWの津崎聖基（まさき）さんは話します。

集落の状況把握とともに社協への理解を深める

支え愛マップの更新では、社協の職員のみならず、若桜町役場、包括支援センターの職員とともに集落への支援を行います。支え愛マップは災害時を想定し「誰1人取り残さず避難ができる体制を整える」ためのものです。

マップの更新をきっかけに行政もそれぞれの役割を発揮する機会ができ、集落の状況把握はもとより、災害時に備えての講義を総務課防災担当職員が行うなど、連携が取れた事業となっています。社協では、マップづくりを通して、地域が良い方向へと変わっていくように支援しています。

昨年度は、コロナ禍で縮小していた小地域サロンの訪問活動に取り組み、半数超のサロンでレクリエーション支援や社協の取組みを紹介するほか、サロン世話人交流会を開催するなど、サロンの活性化を図りました。

また、社協主催のサロンふれあいの里では、小中一貫校若桜学園の児童やボランティア団体の協力により、75歳以上の独居高齢者を対象にレクリエーションや手作りおやつなどを楽しんでもらい、欠席者には児童のメッセージや贈り物を、ボランティアと一緒に対象者宅を訪問して届けました。

ボランティアと一緒に訪問すると、地域ごとに顔馴染みが多く、自然と会話がはずみます。また、自宅へ訪問することで、本人の状況だけでなく、生活環境の把握にもなります。社協職員も覚えてもらえて「何か困ったことがあったら相談させてもらうわ」と、社協への理解にも役立っています。

住民との平時の繋がりが災害時の力になる

津崎さんは、「令和6年能登半島地震」で被災した穴水町の災害ボラ

社会福祉法人
若桜町社会福祉協議会
津崎（つざき） 聖基（まさき）
総務福祉課 主任

※取材は感染対策を徹底した上で、撮影時のみマスクを外しています。

ンティアセンターの運営支援のため2月26日～3月3日の約1週間、派遣されました。「現地は、まだ過酷な状況で生活をしている人もおり大変な状況でした。なんとか自宅に住んでいるものの隣の部屋はタンスが倒れ、ガラスの破片が散らばっていたりと、片付けが間に合わない状況でした」と話します。

また「災害ボランティアセンターには、毎日たくさんの相談が届いており、現地調査へ向かうと大変な状況でありながらも『よく来てくれたね。ありがとう』と気持ちよく迎えられました。そして1人でも多くの人が以前の生活に近づけるように心がけて支援を行いましたが、穴水町の社協職員を見ると、平時の住民との繋がりがこういった災害時に生かされるのだと実感しました」と、津崎さんは大事なことを感じ取ってきました。

若桜町社協では、令和4年に初めて「災害ボランティアセンター運営者研修」を県社協と共催で開催しました。住民に出席してもらうために集落ごとに働きかけ、いざ災害が起きたときの協力者となる地域住民にも、模擬訓練を通して運営者の役割を実感してもらいました。

今年1月17・18日に参加した「智頭町災害ボランティアセンター運営者研修」は、直近の能登半島地震の現地の様子を踏まえた内容で、いち早く復興するための迅速な対応と、災害ボランティアセンターの重要性を学びました。また、模擬訓練では様々な対応を求められる現場で、周りをいかに巻き込んで臨機応変に対応できるかを考えなければならないことも学び、若桜町の災害支援に役立てたいと考えています。

地域を良くするためのふだんからの取り組み

今年度から若桜町より委託された「生活支援体制整備事業」では、今まで若桜町包括支援センターが行っていた業務を引き継ぎ、協議体の開催や社会資源マップの更新などの事業を行っていく予定です。

協議体の委員には、地域で福祉の担い手として活躍している方々や各関係機関の方が選出されており、それぞれの知識や経験を活かし、若桜町をより良くするために様々な意見交換をしてもらいます。

事業には、生活支援コーディネーター（SC）を配置して、地域の様々な課題を発見し、課題解決に向けた取り組みが必要です。SCが地域へ足を運び、住民との繋がりを構築していくことが重要となります。

平時の際に住民との繋がりを構築することで、災害時にSCが活かされます。「実際に石川県の災害支援時にも、SCが現地の状況を把握しており、私たち県外から派遣された職員に的確な指示や地域の実情を教えていただき、生活支援体制整備事業が社協の役割である意義を実感しました」と津崎さんは話します。

難しさの中に学びがあり、やりがいがある

様々な障がい特性のある利用者が働く、若桜町で唯一の「就労継続支援B型事業若ざくらふれあい作

若桜町の口屋堂羅・屋堂羅地区で開催された「支え愛マップ」の更新説明会は、地図と写真を活用しながら真剣に行われました。「これからこの支え愛マップの更新作業を集落住民に広げて行って欲しい」と、CSWの津崎さんは自治会に訴えました。

業所」では、地元企業からの委託作業とともに特産品として評判の高い「若ざくら生芋こんにゃく」を作っています。その作業所の支援員として5年になる井口奈美さんは、「仕事に就いた当初は、利用者一人ひとりの障がいの特性や個性、得手不得手などを覚えることで精一杯でした。言ってはいけないNGワードを使ってしまい、怒らせてしまったこともありますが〝人間、失敗しないと成長しない〟とポジティブにとらえて信頼関係を築き、その中で私自身も学び成長させてもらいました」と、

支援員の井口奈美さん（写真右）

難しさと手応えを話します。

また、こんにゃくの生芋は、地元の農家で栽培してもらい購入しています。販路も広がり購入者から「美味しいので作り続けてくださいね」と聞くと、利用者と職員の喜びとなり、

生芋を下処理して寝かせてから圧力釜で煮てミキサーにかけ、昔からの手作りに近い方法で作る人気のこんにゃくは、1回に約400個、冬場で約600個が作られます。

やりがいに繋がると笑顔で話します。

併設されるデイサービスセンターの介護福祉士である中井美希さんは「デイサービスでは、利用者と直接かかわる中で、感謝の声や喜びの笑顔を身近で感じられることが仕事の魅力です。利用者との信頼関係を築くことが大切ですが、それはとても難しく、大変なこともたくさんあります。それでも日々コミュニケーションを重ねる中で、名前を覚えてもらえて、介助のときに指名されると、信頼が得られたのだと達成感とともにやりがいと喜びを感じます」と微笑みます。

介護福祉士の中井美希さん

事務局長からのメッセージ

畷（なわて） 友美（ともみ）

本会では、地域福祉、介護事業、就労継続支援B型事業などを行っています。様々な資格を持つ職員が多い中、入職時は資格がなくても働きながら資格取得を目指す職員もおり、取得費用の支援制度を設けて応援しています。

職員への異動希望調査に基づいて、介護事業から地域福祉事業へといった異業種へ異動することもあります。多様な形で住民が安心して暮らせる福祉の実現に挑戦できるのは、社協職員ならではの魅力です。

職員同士の仲が良く和気あいあいとした雰囲気で、打ち解けて話ができるため、職員が連携し業種を超えて地域の福祉を支えています。人口3千人未満の小さな町で住民との距離が近いため、顔の見える関係が築きやすく、やりがいを感じて働くことができます。私たちと一緒に、地域の福祉向上のために働いてみませんか。

［概要］
- ●所 在 地／鳥取県八頭郡若桜町若桜1247-1
- ●開 設 日／昭和44年3月19日
- ●運営主体／社会福祉法人 若桜町社会福祉協議会
- ●職 員 数／22人（+臨時職員14人）
  - ・事務局長1名
  - ・総務福祉課8名（総務係3、地域福祉係3、日援事業支援員2）
  - ・事業課28名（居宅介護支援係2、通所介護係14、訪問介護係5、障がい福祉係7）
- ●活動内容／地域福祉事業、介護サービス事業、障がい者福祉サービス事業等
- ●利用相談窓口／当該法人

Challenge チャレンジ福祉の仕事

社会福祉法人 若桜町社会福祉協議会

福祉分野の質的変化や制度改革などにより、福祉施設などではさまざまなキャリアや資格をもつ人材が求められ、それに応えて働きがいをもって福祉の仕事に新たにチャレンジしている人たちがいます。ここでは、福祉分野の仕事に就労し、情熱を燃やしている人たちを紹介します。

今は何事にも積極的に挑戦していきたい

社会福祉法人　若桜町社会福祉協議会
総務福祉課主事　門脇（かどわき）夕貴（ゆうき）さん

若桜町社協に入って間もない門脇夕貴さんは、京都の大学で2年生になるときに福祉コースを選択し、大学卒業時に社会福祉士の受験資格を取得して、後に資格を取得しました。

大学では社会福祉協議会での実習で、地域サロンや就労継続支援事業所を体験した門脇さんは、社協は「障がいや年齢にかかわりなく、地域住民を巻き込んで町全体を暮らしやすい場所にしていくために働く仕事」だと感じ、地域福祉のために働きたいとの熱い思いから若桜町社協に入職しました。

若桜町社協の職場は、「雰囲気も明るくオープンな環境で相談しやすいです」と話す門脇さんは、分からないことや疑問に思うことは、先輩職員の方々に早めに報告や相談をして、そのままにしないようにしています。

そして、「これからは仕事の決まりごとや行事のスケジュールなどの流れをしっかりと把握して、自分から気付いて動けるようになりたいです」という思いから「今は何事も恐れることなく何でも積極的に挑戦していきたいです」と笑顔を見せます。

担当するのは、災害時の避難支援の仕組みや、ふだんの見守り体制づくりを住民が主体となって行う「支え愛マップ」づくりの支援などで、主役は住民であることを大切にして支援するよう心掛けています。

社協では、さまざまな事業を通して多様な面から福祉に携わることができるところにやりがいや魅力があります。いろいろな事業に携わりながら、職場の方からも、地域の方からも信頼され、喜んでもらえる職員を目指し、「まず地域に出かけて、住民の人たちに知っていただくことで支援の輪を広げていきたいです」と意気込んでいます。

地域の方々への感謝の気持ちを忘れずに

社会福祉法人　若桜町社会福祉協議会
総務福祉課主事　車井（くるまい）愛（あい）さん

父と兄が介護の仕事をしていたことから、自然と福祉に興味を持つようになったと話す車井愛さんは、高校生のときに福祉コースでヘルパー実習を受けたものの、一旦は一般の仕事に就きました。しかし、年齢を重ねるとともに介護の仕事への興味が増し、学び直して介護福祉士資格を取得し介護職に就きました。

当初は若桜町社協のデイサービスで6年間勤務し、総務福祉課に異動して2年目です。「介護現場とは違って、地域に出向いたり、関係各所とのやり取りなど、未経験なことばかりでとても大変でした」と、車井さんは振り返ります。

現在は、老人クラブ連合会の事務局や福祉団体の育成・支援、福祉教育推進事業などを担当しています。また、ボランティアセンター事業として、毎週水曜日の「食事サービス」でボランティアによる弁当配達や年5回の弁当調理ボランティアの支援などにも取り組んでいます。

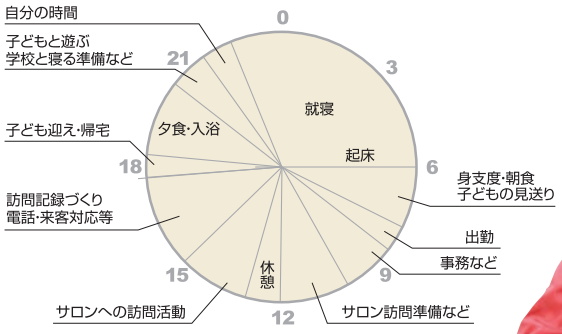
さらに、毎年小中一貫校若桜学園5年生～9年生（中3）の児童・生徒を対象に「夏休み体験ボランティア事業」を実施しています。参加希望者を募集し、弁当の配達や福祉施設での車椅子の手入れや職場体験など、参加した児童・生徒たちと交流する中で「『来年もまたボランティア活動をしたい』と言われたときは、とても嬉しくて、この仕事のやりがいを感じました」と車井さんは微笑みます。

若桜の住民になって10年。「若桜町社協で働き7年が過ぎ、町民の皆さんに顔と名前を覚えていただき可愛がっていただいています。地域に出向きたくさんの人と関わりをもてるこの仕事に就けてとても良かったと思っており、これから5年先、10年先も地域の皆さんとの関わりを大事にしていきたいと思います」と車井さんは、いつも感謝の気持ちを忘れていません。

※取材は感染対策を徹底した上で、撮影時のみマスクを外しています。

福祉専門職の紹介「コミュニティソーシャルワーカー」

とにかく出向いて繋がりと信頼関係を築くこと



社会福祉法人 若桜町社会福祉協議会
社会福祉士
コミュニティソーシャルワーカー 平木慎也（ひらぎしんや）さん
（総務福祉課地域福祉係　係長）

コミュニティソーシャルワーカー（CSW）は、地域でそれぞれに活動している各種団体や、地域のために何か活動したいと思っている住民などをつなぎ、世代間交流や地域ネットワークに発展させたりすることで、地域全体の「福祉力」を高める地域住民活動のサポート役です。地域におけるサポートネットワークを形成しながら、生活課題に対して地域で支え合う仕組みを作る役割を担っています。

現在の仕事の内容を具体的に教えてください

主に地域活動支援と個別支援があります。地域活動支援は、誰もが安心して生活できる地域を地域住民と一緒に考える活動をしています。例えば、防災と福祉両面の視点から作る「支え愛マップ」づくりの推進、地域サロンの運営などに関する相談や訪問活動などです。社協を身近に感じてもらうために、できるだけ地域へ出向くようにしています。個別支援は、生活のしづらさを抱える方への相談支援から、より専門的な生活困窮者の支援も行っています。

仕事のやりがい、魅力などを教えてください

地域住民や福祉関係者、関係機関など、とにかく多くの方々と会って話をします。何度もお会いする中で信頼関係ができ、仕事がスムースに遂行されたときに、やりがいを感じます。人と人が繋がって、物事が良い方向に進んでいる様子を目の当たりにすると嬉しく、この仕事の魅力の一つだと感じます。

「この仕事に就いて良かった」と思うのはどんな時ですか？

人と人をつなぐことで、想像以上の相乗効果をみることができたときは、素直に嬉しいです。例えば、独居の高齢者を対象とした地域サロンの運営に課題が発生したとき、その課題に対して各方面に働きかけを行い、話し合いの場を開き一緒に検討しました。その結果、課題は軽減でき、また、かかわってくれる団体・機関も増え、以前よりも地域サロンに活気が出ました。その時の皆さんの笑顔に充実感を覚えました。

仕事をするうえで大切にしていることは、どのようなことですか？

何よりも対象者と良い関係性をつくることが大事な仕事ですから、あいさつ、表情、態度といった接遇を大切にし、印象が悪くならないように心掛けています。また、地域や個人からの相談があったときには、地域・個人の思いを第一に考え、支援者側だけの思いにならないように気をつけています。

休日は何をして過ごしていますか？

子ども2人と妻の4人家族ですが、最近は、子どもの野球の試合の応援をしたり、審審を担当したりすることが多いです。自分の子ども含め、野球を頑張っている子どもたちの姿を見て、自分も頑張ろうと思い、良い気分転換の時間にもなっています。YouTubeでゆっくりと動画を見るのも好きな時間です。

※取材は感染対策を徹底した上で、撮影時のみマスクを外しています。

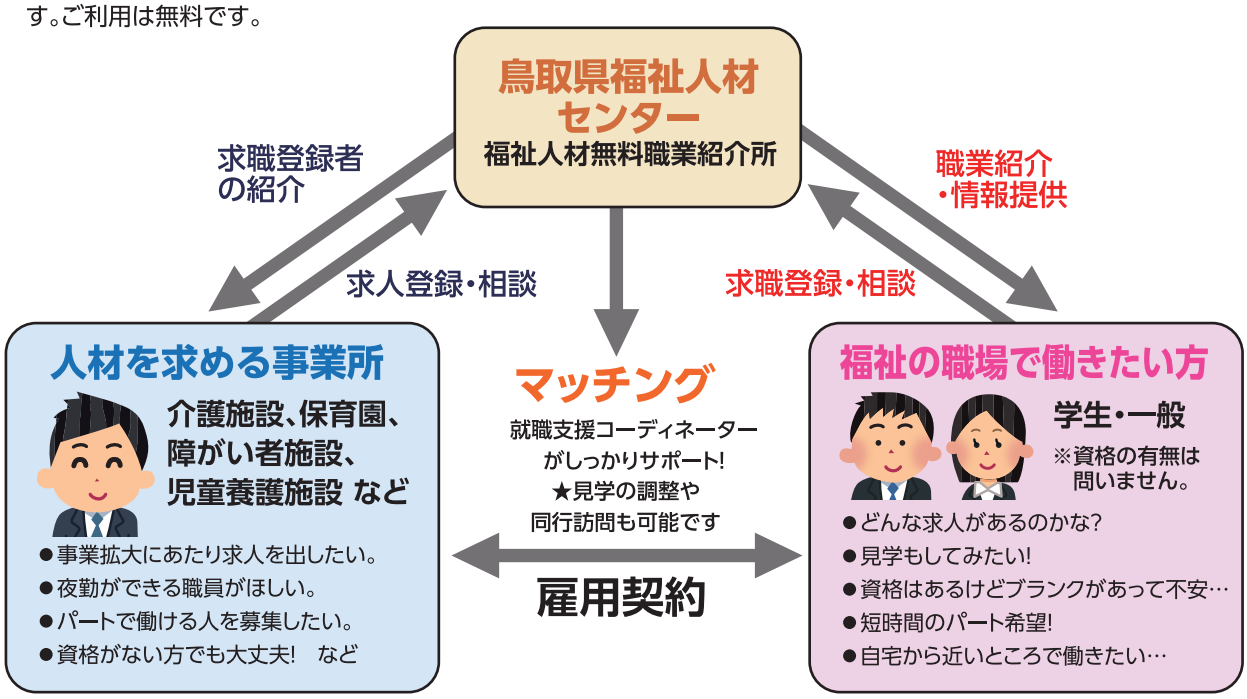
鳥取県福祉人材センターのご案内

福祉の職場で働きたい方と人材を求める事業所との橋渡しをしています

鳥取県福祉人材センターは、職業安定法に基づく無料職業紹介事業（厚生労働大臣許可）をはじめ、福祉人材の確保・育成・定着に関わる総合的な取組を行っています。【無料職業紹介事業許可番号13-ム-010001】

■無料職業紹介事業

福祉の職場で働きたい方、求人情報を知りたい方には、求職登録や職業紹介、求人情報の提供を行います。
また、人材を求める事業所には、求人の条件に該当する求職登録者の紹介など、求人者と求職者双方のニーズに応えます。ご利用は無料です。



福祉の職場で働きたい方への職業紹介の流れ

- **相談・登録**　求職登録をお願いします。
- **お仕事探し**　センターに登録されている求人情報を提供します。
- **応募・紹介**　応募したい求人がありましたらご連絡ください。紹介状を発行します。
- **面接**　結果をセンターにご連絡ください。

人材を求める事業所への就業あっせんの流れ

- **求人登録**　求人登録をお願いします。
- **求人情報公開**　登録された求人情報や事業所の情報を求職者に提供します。
- **紹介・応募**　求職登録者からの応募をセンターで受付し、紹介状を発行します。
- **面接**　結果をセンターにご連絡ください。

就職後の定着やキャリアアップのご相談も

＼まずはご相談ください／

鳥取県福祉人材センター
〒689-0201鳥取市伏野1729-5　TEL（0857）59-6336　FAX（0857）59-6341
【開設日】月～金　8:30～17:00（祝日、年末年始は除く）

専用サイトで求職・求人の登録・求人票の閲覧ができます。
福祉のお仕事 FUKUSHI-JOB SEARCH
福祉のお仕事　検索

とっとりボランティアバンク 登録団体紹介

特定非営利活動法人みんなの家「コミュニティカフェましろ」

「とっとりボランティアバンク」はボランティア活動に関心を持っている方が活動に参加する“きっかけ”を提供するため、県内の生活支援や災害ボランティアを中心にした情報を収集・発信しています。

バンクには「ボランティア活動をしたい」個人と「ボランティア活動をしたい／ボランティアを募集したい」団体が登録しています。このコーナーでは登録団体についてその活動や想いを紹介します。

[ホームページ] https://www.torivc.jp

インタビューに参加いただいた皆さん

地域の中に〝わが家〟のように落ちつける居場所を

「特定非営利活動法人みんなの家」は鳥取市美萩野地区に住んでいた人や幼稚園・学童の保護者を中心として、地域の活性化を願って立ち上げた法人です。法人の理念である「誰もが安心して暮らせる街づくりの実践」として、2011年に「コミュニティカフェましろ」(以下「ましろ」)を開設しました。コロナ禍で休業していましたが、地域食堂として再開を望む声があり、2023年9月に再出発しました。

檜山常雄代表理事は、「高齢化や少子化が進み、今では単身世帯が一番多くなっている。どのように地域の中で支え合いの仕組みを作っていくかが今後の課題です。自分たちでできることを考えた時、地域食堂は一つのツールになると考えました。地域食堂を通して地域貢献をしていくことが我々に求められていることではないか」と言います。

コミュニティカフェましろの外観

ましろは、人と人を繋ぎ、共に支え合うための「場」を提供し、同じ目線で話し、対等な関係を大切に活動しています。

みんなが笑顔で過ごせるように

ましろは、毎月第2・4土曜日の午前11時から午後2時まで開いています。ランチは完全予約制です。開催する週の2日前(木曜日)までに予約をすることで利用できます。一人でも落ち着けるカフェ空間、家族連れやグループでも利用できる広いリビングに分かれています。

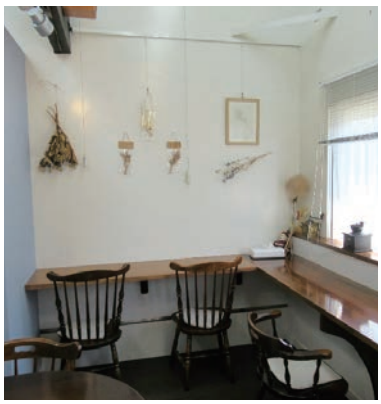
リピーターも多く「また予約して来ます。ご飯美味しかったです」と笑顔で帰っていきます。お子さんが遊べるおもちゃも用意してあり、食事を終えたら、スタッフと一緒に風船やかるた等で遊ぶ明るく元気な声が響き渡っています。小さなお子さんがスタッフと遊ぶことで、普段子育てをしている保護者も一息をつける場所になっています。

障がいのある方や高齢者も利用され、一緒に来た友達や家族、スタッフ、お子さんと会話や食事を楽しんでいます。スタッフは、「ましろは、なんの枠もなくみんなが来られる場所・当たり前に過ごせる場所だと思います」と普段の活動を振り返ります。

繋がりが広がる活動を目指して

檜山代表理事は、「現在は毎月2回しか活動が出来ていないが、今後は回数を増やすことやイベントもできたら」とイメージを描きます。ましろでは、一緒に活動してくれる仲間やボランティア・野菜などの食材提供をして下さる方を募集しています。

地域食堂の活動に賛同し、協力していただける方が増え、地域の輪が広がっていくことが一番の願いです。



一人でも利用しやすいカフェスペース

特定非営利法人みんなの家
法人事務所
代表理事／檜山 常雄
[問合せ先]
電話 0857-30-7677
E-mail：t_minnanoie@yahoo.co.jp
Hp：https://minnanoie.jimdofree.com/

地震「鳥取県災害ボランティア隊」振り返り会 レポート

経験を伝え、今後につなげるためには

マグニチュード7.6、今年の元日に発生した「能登半島地震」の被災地への一般ボランティアで参加した10名が、5月18日に倉吉体育文化会館研修室に集い、「鳥取県災害ボランティア隊」振り返り会が開催されました。

ボランティア活動期間は、3月初旬から下旬の間の6日間で、7回の日程に別れて石川県志賀町へ、鳥取県職員災害応援隊のバスに同乗し活動を行いました。2月末の志賀町（同町HPより）の被災状況は、人的被害が死亡2人、重傷7人、住宅被害は全壊・半壊等6、412世帯で、日本海に面した風光明媚な景勝地は一変していました。

ボランティアセンター入口

この被災状況を伝え、繋げて行かなくては

鳥取短期大学
幼児教育学科
萩原 魁さん

3月21日～26日に支援活動にあたった、鳥取短期大学幼児教育学科の萩原魁（かい）さんは、「授業で能登半島地震の支援に行きたくても行けない先生の話が印象的で、〝行ってみよう〟と思い、勇気を出して参加しました」と参加した動機を話します。

萩原さんが見た現地は、倒壊した住宅や危険を示す「赤札※」がいたるところに貼られた状況でした。家の方は普通に話をしてくれましたが「大変な思いをされている」と、傷ましい空気感を肌で感じたと話します。

※被災宅地危険度判定結果の表示（赤色は「危険」）

ボランティア当日受付

ボランティア活動は、割れ落ちた瓦や家財を搬出して軽トラックに積むのが主な役割でした。「いま一番何が必要か」と考えながら取り組む中で、「この状況を伝え、今後に繋げていかなくてはいけない」との思いから、帰鳥してから活動報告をまとめ、大学や地域で見てもらい、能登の現実の一端を感じてもらいました。

一つひとつ丁寧に取り組むことが大切

鳥取環境大学
環境学部
平井 杏奈さん

3月25日～30日に活動した、鳥取環境大学環境学部2年生の平井杏奈さんと橋目蓮平（れんぺい）さんは、大学にボランティア募集のメールが届いたのを知り、平井さんが誘って2人で参加しました。

中学校2年生のときに理科の授業で、災害と防災に興味を抱いていたと話す平井さんは、「能登は遠くて機会がないと行けないと思っていたけど、参加できて良かったです」と、貴重な体験を語ります。

「雨の中での活動もあり大変でした。そんな中でも、ボランティアは臨機応変に対応することが求められていました。一つひとつ丁寧に取り組むことが大切だと感じました」と話します。

そして「オムツや日用品など、本当に必要な物資が届いておらず、大量の衣類や毛布などは処分されていて、支援の難しさを感じました。

鳥取環境大学
環境学部
橋目 蓮平さん

鳥取県ボラセン
キャラクター
「はーちゃん」

能登半島

活動前の説明の様子

今後、被災者に寄り添ったメンタル面での支援がしてみたい」と話します。

悲惨な状況の空気を肌で感じた支援活動

倒壊した家屋、隆起した道路と大きなひび割れ、沈下したり倒れた電柱、平井さんと橋目さんはそんな現地での活動でした。

「誰かの役に立ちたいと思い参加しましたが少し不安もありました」と話す橋目さんは、悲惨な状況の空気を肌で感じながら活動しました。お年寄りが暮らす家は、1日では片付けられないほどの状況で、「もっと時間があれば。できればまた行きたい。そしてこの経験を伝えていって、ボランティアの気運が広がっていけば嬉しいです」と話します。

有意義で貴重な体験となりまた参加したい

振り返り会に参加した10名は、20代から70代の幅広い年代の方々です。前述の萩原さん、平井さん、橋目さんは、災害ボランティア活動は初めてでした。他の参加者の中には、東日本大震災や西日本豪雨等で被災地に駆けつけた方もいました。

75歳の中川政雄さんは、3月17日～22日に活動しましたが、「雨が降り気温が低かったので、体調維持が難しかった。業を再生するのが難しそうな状況で、何より少子高齢化とともに、これからの志賀町が人口減少に繋がることが心配です」と話します。

個人で現地に行こうと思い県社協を訪れ、ボランティア隊のことを知り参加した別本勝美さんは「現地では築150年の古民家に入らせてもらったが、部屋の中が混沌とした状態でした。1日3時間の活動では、なかなか片付かないですよね」と煮え切らない思いがしたと話します。

藤川勝志さんは「皆さんと一緒に活動ができたことは非常に良かった。若い人たちにも参加してほしい」と話します。

県社協では、13年前の東日本大震災の支援からボランティアバスを運行してきましたが、そのバスで幾度か参加してきた高田博正さんは「これまで参加したボランティアバスの活動では、被災された方に寄り添った活動をしてきました。この度は、現地の方と言葉を交わす機会は少なかったのですが、まだまだボランティアによる支援が必要だと感じました。」と話します。

今回の振り返り会に参加できなかったボランティア隊参加者からは、「有意義でとても貴重な体験となりました。支援できたことは喜びとなり、また参加したいと思っています」という声が多く寄せられています。

中川政雄さん

別本勝美さん

藤川勝志さん

高田博正さん

第32回 因伯シルバー大会

4月27日(土)から5月19日(日)の間、鳥取市のヤマタスポーツパーク等、県東部を中心とした会場において第32回因伯シルバー大会を開催しました。

因伯シルバー大会は、スポーツや文化活動を通して、高齢者の仲間づくりや健康、生きがいづくりを促進するために毎年開催するもので、参加者にとって日頃の練習の成果を発揮し、楽しく交流と親睦を深める機会となっています。

健康マージャン

この大会は全国健康福祉祭(愛称：ねんりんピック)の選手選考会を兼ねており、ねんりんピックの地元開催となる今年は卓球やテニス、囲碁、将棋、健康マージャン等の12種目の競技に前年度より400人多い総勢1300人の参加者がありました。

今回の大会の皮切りは4月27日(土)、鳥取県立福祉人材研修センター(鳥取市)において開催した健康マージャンです。例年の倍近くに定員(80名)を増やしましたが、それでも定員オーバーで参加をお断りするほどの人気ぶりでした。当日は、参加された皆さんが、日頃の練習の成果や以前、仕事帰りに修練を積まれた実力を発揮され、真剣に勝負を挑まれているのが印象に残りました。

優勝された浅井由紀子さん(倉吉市)に感想とねんりんピックへの意気込みについてお聞きしました。浅井さんは、『5年ほど前にNHKのマージャン教室に通ったのがきっかけで、今は月2回地域の仲間とマージャンを続けています。鳥取大会ではいろんな地域の選手と交流して楽しみたいし、来県する多くの人達にも楽しんで欲しい。』と話されました。

最後まで力を出し切り、心に残る大会となることを期待しています！

健康マージャン優勝の浅井由紀子さん

ソフトボール

ペタンク

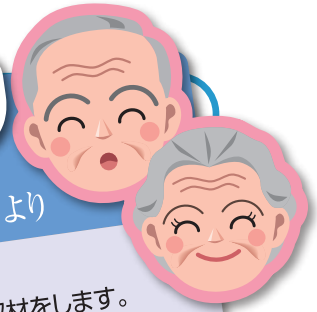
ゴルフ

卓球

伸ばそう! 健康寿命、担おう!地域づくりを

いきいきシニア

ことぶきレポーターの取材より



県内の素敵な高齢者を
同世代のことぶきレポーターが取材をします。
「シニア」の「シニア」によるシリーズ。
地域で頑張っている人、生きがいをもって暮らしている人など高齢者の魅力を余すことなくご紹介します。

木村定雄会長

高齢者の健康や生きがいづくりと地域を豊かにする社会活動をされている米子市老人クラブ連合会(以下、米子市老連)会長の木村定雄(88歳)さんにお話を伺いました。会長とは妻木晩田遺跡で、ガイドを一緒にするなど長い付き合いで気心の知れた大先輩です。

米子市老連は、令和5年度の基本方針として「伸ばそう!健康寿命、担おう!地域づくりを」をテーマに心身の健康づくりに努め、自立した生活、生きがいのある生活を実現するため、他世代や諸団体と連携しながら「安心・安全の地域づくり」を目指してきました。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、外出や活動自粛が長引いたことで、クラブや会員数の減少に歯止めがかからない厳しい状況等と、会長の胸の内を打ち明けられました。

そのような中、昨年5月に新型コロナウイルス感染症の位置づけが「5類」へ引き下げられたことで、フレイル(身体虚弱)予防や介護予防を目的とした県外日帰り親睦交流旅行を令和5年10月に実施することができました。この旅行は、木村会長が日本鉄道観光の公認インストラクターの知識を生かして企画されたそうです。

当日は46名の参加者が広島の歴史と文化に触れながら、ミニウォーキングや学習タイムを通じて、久しぶりの外出による心身のリフレッシュを図られました。原爆で倒壊後、再建された広島城天守閣や平和記念資料館の見学は、平和の大切さを学び、伝統文化に触れながら感動を共有されたそうです。参加者からは、「久しぶりの外出で皆と一緒に歩けて楽しかった」「リニューアルされた平和記念資料館を初めて訪れ、歴史に思いを馳せることができた」との声を多くいただき、非常に好評な企画となったようです。

保存整備された原爆ドームの鉄骨部分

待望の広島城天守閣をバックに

木村会長は、「この旅行を通じて、会員同士の親睦を深めるとともに、健康維持と心身の活性化を図ることができた。外出し、体を動かして、たくさんの方と交流することがフレイル予防になり意識も高まる。今後も他世代や諸団体と連携しながら、さまざまな活動を展開し、健康長寿を目指し活動していく予定。そして、活動を通して会員の皆様が安全・安心にいきいきと暮らせる地域づくりに努めていきたい」と語られました。

※老人クラブとは

老人クラブは、地域を基盤とする高齢者の自主組織です。戦後、先覚者の提唱と社会福祉協議会の協力によって各地に誕生し、全国に広がりました。現在、鳥取県では583クラブ、会員24、807人、また全国では439万人の会員を擁する組織となっています。

平和記念公園

取材を終えて 一言

岡田 信行さん(米子市)

木村さんは、もともとボランティア精神旺盛な方。超高齢者でありながら、各種団体の役員や審議員を歴任され、毎日が御多忙のようです。受けた任務は「率先垂範」を信念に活動されていて、これからも健康と更なるご活躍を期待しています。

ボラ活で鳥取を元気に!!

とっとりボランティアバンクPR動画を作成しました!

鳥取県ボランティア・市民活動センターでは、ボランティア活動をしたい個人・団体、ボランティアを募集したい団体が登録する「とっとりボランティアバンク」を運営しています。

この度、学生を始めとした若い世代の方のボランティア活動推進のため、ひいてはバンク登録促進のため、鳥取看護大学・鳥取短期大学・公立鳥取環境大学の学生の参加を得てPR動画を作成しました。

実際の学生によるボランティア活動の様子や活動を始めるにあたってのQ&Aなど交えた全4本の動画で、現在鳥取県社会福祉協議会のYouTubeチャンネルで絶賛公開中です。

ぜひご覧になってください。

日本遺産でボラ活やってみた三徳山編

https://youtu.be/MgyaXicFsNE

地域とつながるボラ活 マルシェ編

https://youtu.be/dIHq-tTxwN4

教えてはーちゃん!ボランティア活動のあれこれ

https://youtu.be/4cFMOnXV7ww

とっとりボランティアバンクに登録しよう

https://youtu.be/pbp4MceLnas

とっとりボランティアバンクにご登録ください

ボランティアの力を借りたい
ボランティアをしてみたい

そんなときは…
とっとりボランティアバンクに

ご登録ください!

誰かのために力になりたい

ボランティアしたいけどどこで募集してるの?

ボランティアと一緒に地域を元気にしたい

ボランティアの力を借りたい

ボランティアバンクではこんなお手伝いをします

ボランティアの活動調整
ボランティアを募集する方と、活動する方との調整を行います。

ボランティア活動に関する相談受付
ボランティア活動に関する困りごと、お悩み、助成金の申請方法など、何でもご相談ください。

ボランティア活動に関する情報提供(メルマガ)
登録された方に、ボランティア募集やボランティアに関する講座・研修などの情報をメールなどで提供します。

ボランティアバンクに登録いただくと…

ボランティアしたい人(団体)

県内外のボランティア募集やボランティア関連講座・研修などの情報を受け取ることができます。

ボランティアの力を借りたい団体

とっとりボランティアバンクのHPやメルマガを通じてボランティア募集やボランティア関連講座・研修などの情報を発信できます。

登録したいと思ったら…

下記ホームページから登録いただくか、登録票に必要事項を記入のうえ、ファクシミリもしくはEメール、郵送にて送付してください。登録票は下記ホームページからダウンロードいただくか、お問い合わせ先にご連絡ください。

ホームページアドレス　https://www.torivc.jp/

●お問い合わせ・ご相談　福祉振興部(鳥取県ボランティア・市民活動センター)まで TEL0857-59-6344 FAX:0857-59-6341

令和６年度

https://www.fukushihoken.co.jp
ふくしの保険 検索

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償

ボランティア活動保険

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が５類感染症に変更されたことに伴い、「特定感染症重点プラン」を廃止して２つのプランとします。

保険金額・年間保険料（1名あたり）

団体割引20%適用済／過去の損害率による割増適用

保険金の種類 ＼ プラン			基本プラン	天災・地震補償プラン
ケガの補償	死亡保険金		1,040万円	
	後遺障害保険金		1,040万円（限度額）	
	入院保険金日額		6,500円	
	手術保険金	入院中の手術	65,000円	
		外来の手術	32,500円	
	通院保険金日額		4,000円	
	特定感染症		補償開始日から補償(*)	
	地震・噴火・津波による死傷		×	○
賠償責任の補償	賠償責任保険金（対人・対物共通）		5億円（限度額）	
年間保険料			350円	500円

＊特定感染症についても10日間の免責期間がなくなり、補償開始日から補償対象となります。
なお、令和５年５月８日以降、新型コロナウイルス感染症は補償対象外となりました。

商品パンフレットはコチラから

（ふくしの保険ホームページ）

＜重 要＞

- ◆基本プランでは地震・噴火・津波に起因する死傷は補償されません。
- ◆年度途中でご加入される場合も上記の保険料となります。
- ◆中途脱退による保険料の返金はありません。
- ◆中途でボランティアの入替や、ご加入プランの変更はできません。
- ◆ご加入は、お１人につきいずれかのプラン１口のみとなります。

ボランティア行事用保険（傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険）

送迎サービス補償（傷害保険）

福祉サービス総合補償（傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険（オプション））

● このご案内は概要を説明したものです。詳細は、「ボランティア活動保険パンフレット」にてご確認ください。●

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事保険会社〉損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL：03（3349）5137
受付時間：平日の9:00～17:00（土日・祝日、年末年始を除きます。）
この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL：03（3581）4667
受付時間：平日の 9:30～17:30（土日・祝日、年末年始を除きます。）

〈SJ23-11315 より抜粋〉

HOTeyeギャラリー

鳥取ユニバーサルスポーツセンター ノバリア 紹介①

障がい者スポーツの拠点施設として、2020年7月に鳥取市布勢にオープンいたしました。全館バリアフリー仕様となっており、どなたでも安心してご利用いただけます。館内には、スポーツ広場・トレーニングルーム・マルチルーム・相談室・交流スペースがあり、スポーツ指導員が常駐しています。施設利用のほかに、無料でスポーツ用具の貸出しやスポーツ指導員の派遣・健康相談なども行っています。

［ボッチャの起源とルール］

ボッチャは、重度の脳性まひのある人や同程度の重度障がいが四肢にある人のためにヨーロッパで考案されたスポーツです。1984年からパラリンピックの正式競技として行われており、2020年東京パラリンピックでの日本チームの活躍で、一躍、競技の知名度が上がりました。最近は、障がいの有無に関わらず、老若男女問わず、誰でも手軽に楽しむことができるスポーツとして普及しつつあります。ルールは、とても簡単で、的玉（まとだま）と呼ばれる白いボール（ジャックボール）に赤色・青色のそれぞれ6球ずつのボールを、いかに近づけるかを競うスポーツです。的玉に近づけたボールの色の数で得点を計算し、勝敗を決めます。簡単なルールですが、戦術の奥深さに魅了されます。是非一度、体験してみてください。きっと、ボッチャファンになると思います。

ボッチャ

社会福祉法人 鳥取県社会福祉協議会

〒689-0201 鳥取市伏野1729-5（県立福祉人材研修センター内）
URL https://www.tottori-wel.or.jp　e-mail soumu@tottori-wel.or.jp

福祉人材の確保・育成・定着を支援します

鳥取県福祉人材センター

TEL.0857-59-6336 FAX.0857-59-6341
URL https://www.tottori-wel.or.jp/jinzai/shigoto_top/
e-mail jinzai@tottori-wel.or.jp

ボランティア活動の幅を広げる活動を応援します

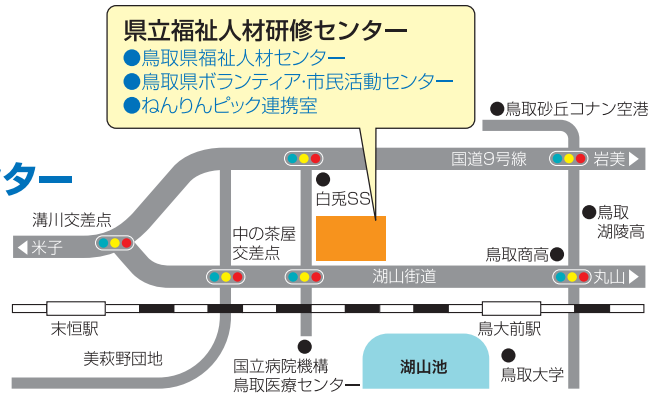
鳥取県ボランティア・市民活動センター

TEL.0857-59-6344 FAX.0857-59-6341
URL https://www.tottori-wel.or.jp/hukushi/vol_top/
e-mail vc@tottori-wel.or.jp

元気な高齢者の生きがい・社会貢献を支援します

明るい長寿社会づくり推進事業担当

TEL.0857-59-6332 FAX.0857-59-6340
URL https://www.tottori-wel.or.jp/chiiki/kotobuki/
e-mail kototori@tottori-wel.or.jp



SUPPORTER 広げよう！あいサポート運動

本誌について、また、福祉に関することについて
県民のみなさまからの御意見をお寄せください。

鳥取県男女共同参画推進企業

「HOTeye ホットアイ」第116号／令和6年7月発行
発行／社会福祉法人 鳥取県社会福祉協議会　〒689-0201 鳥取市伏野1729-5（県立福祉人材研修センター内）　TEL.0857-59-6331 FAX.0857-59-6340
印刷／日ノ丸印刷株式会社

再生紙を使用しています。